



個人ではなくみんなで考えよう!! 児童虐待を防ぐ社会をつくる



児童虐待は、誰もが望まないことです。多くの人はそのことをわかっているのに、児童虐待相談対応件数は増加の一途をたどっています。保護者のプレッシャーや孤立、地域のつながりの希薄化など、さまざまな要因が児童虐待へとつながります。児童虐待防止に向けて何かできることはないか、一人ひとりが考えてみませんか。

● 児童虐待の定義とその現状

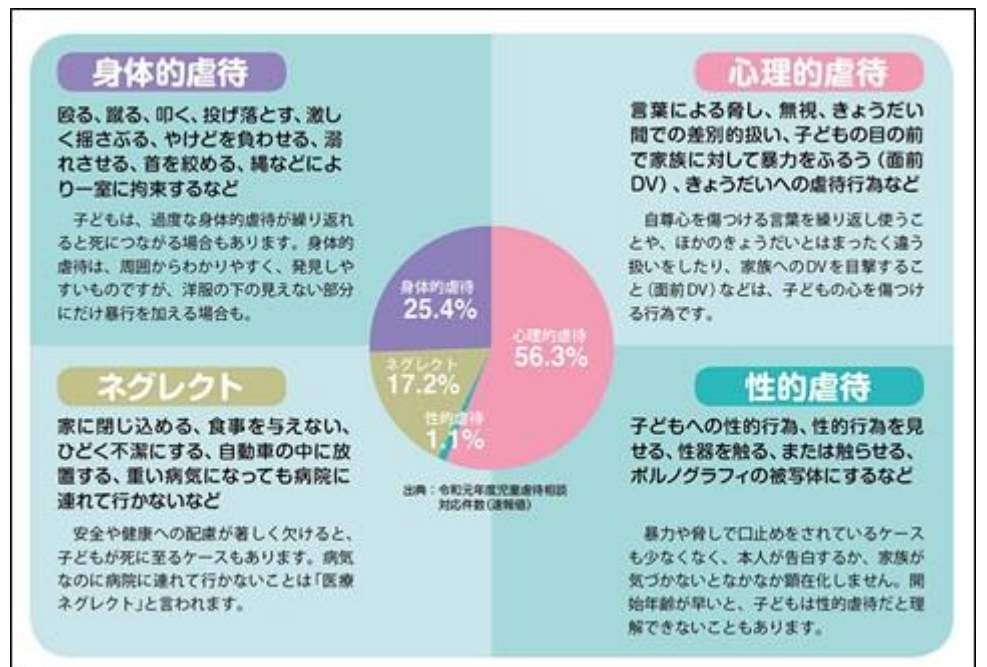
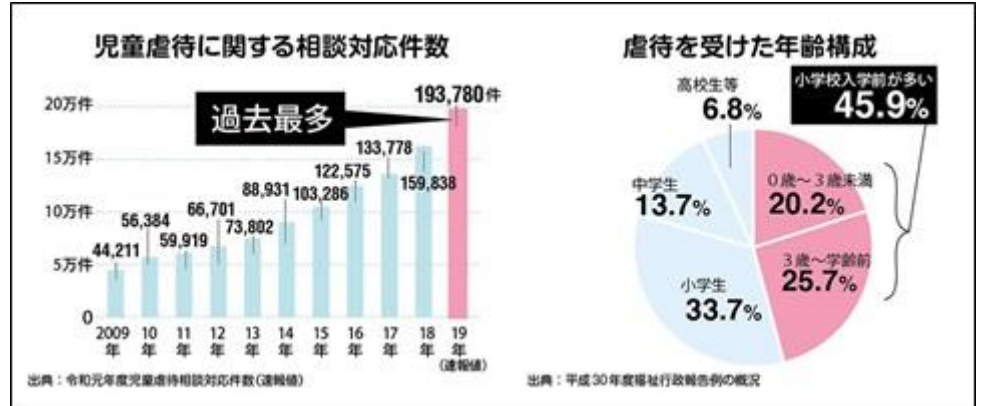
児童相談所での児童虐待相談対応件数は毎年、一貫して増え続けており、2019年度には19万件を超えました。また近年、何人ものかけがえのない子どもの命が虐待によって失われる事件が発生しています。こうした状況を受けて、国は2019年6月に児童福祉法等改正法を成立（一部を除き翌年4月から施行）させ、保護者による児童への体罰の禁止などを法定化しました。

● 児童虐待の定義は4つ

児童虐待は大きく、次の4つに分けられます。令和元年度の速報値では、心理的虐待件数が50%を超え、次いで身体的虐待件数が25%前後に上っています。単独で発生する場合もあれば、幾つかが複雑に絡まり合って起こる場合もあります。【厚生労働省HPより】

さて、コロナ禍の令和3年度は・・・

警察庁発表の2021年の犯罪情勢統計によれば、児童虐待の疑いで児童相談所に通告された18歳未満の子どもは10万8,050人で、前年に比べ1.0%増であった。また、虐待事件での摘発は前年比1.7%増の2,170件でとも過去最多を更新した。虐待通告の内訳は、子どもの目の前で家族に暴力を振るうなど「面前DV」や子どもに暴言を浴びせるなどの「心理的虐待」が8万299人（前年比2.4%増）で最も多く、全体の7割を占めた。次いで「身体的虐待」が1万9,185人（同1.4%減）、ネグレクト（育児放棄）などの「怠慢・拒否」が8,270人（同6.6%減）、「性的虐待」が296人（同0.3%増）だった。摘発の内訳では、「身体的虐待」が最多の1,762件（同0.3%増）で全体の8割でした。



2020年4月に施行された改正児童虐待防止法は「親による体罰を禁止する」と明言しました。ただ、イライラして子どもに手を挙げてしまう。これは、体罰です。コロナ禍は、感染リスクだけでなく、子育て世代に外出自粛や在宅勤務などにより子育ての負担感、孤立感や将来への不安感を増大させています。それらの感情は保護者を追い詰め、多くの場合その矛先は子どもに向けられました。インターネットなども活用し、保護者同士がつながること、家族や職場、保育園など相談できる相手をつくることで、防ぐことができる事例があります。辛いときに「たすけて」と言える社会、「たすけて」と言った時に必ず誰かがその声に耳を傾けてくれる社会になるために、まずは一人ひとりが、そうありたいと思う必要があります。

虐待から子どもたちを守るために、私たちが知っておきたいこと、誰かに伝えたいこと・・・



赤ちゃんは泣き止まないことを知っておきましょう

赤ちゃんの感情は未分化なので、「快と不快」からスタートします。赤ちゃんは泣くことで「不快」を表現します。動物と違って人間の赤ちゃんは自分で食べ物を探して食べることができません。泣くことで、自分の困った状況を伝えるのは生きる力なのです。おむつを替えても、授乳しても、抱っこしてもどうしても赤ちゃんは泣き止まないこともあります。大人でもそうですが、赤ちゃんも泣きたいことがあるのです。赤ちゃんに泣かれて辛い場合には、赤ちゃんをベビーベッドなど安全な場所に置き、少し離れて大丈夫です。どうしても辛かったら、ママ友やパパ友、祖父母などに相談したり、最寄りの保健センターや保健所、あるいは地域の家庭支援センターに相談してみましょう。

赤ちゃんは具合が悪い時にも、泣いたりぐずります。普段と違う様子が見られたら、小児科で相談してみましょう。地域の小児科医も、子育ての相談に応じられるはずです。

※発熱、頭をぶつけた、嘔吐、けいれんなど判断に困ったとき、また休日や夜間、子どもの症状についてどうしたらよいか困ったとき、電話で相談できます。小児科医師、看護師からアドバイスを受けられます。

赤ちゃんが泣き止まなくても、前後に強く揺さぶるのはNGです。赤ちゃんの柔らかい脳にダメージを与えてしまうことになります。電車や飛行機、また公共の場で赤ちゃんが泣いてしまうこともあります。周囲の方は温かい目で見守ってください。可能なら「赤ちゃん泣いて大変ですね。大丈夫ですよ。」などと声をかけましょう。

(認定特定非営利活動法人 児童虐待防止全国ネットワーク ホームページより)

子育てが辛い、悩みをかかえているあなたへ

子育てのこと、だれかに話してきていますか？

子どもの成長の過程には、様々な特徴があります。例えば、2歳前後から始まる第一自立期や、今は10歳ごろから始まるとされる思春期など。第一自立期では、子どもが意に反することに対して「いやだ！」と言い、親が困ってしまう場合がよくあります。そうした時期に、子育てをしながら家事や仕事の両立はとて大変なことです。そんな時、子育てや生活全般のことで、話ができたり、相談する相手がいたりすると、心強いものです。

周りに相談できる人がいる場合

子どもの健やかな成長にとって、あなたが心身ともに健康であることはとても望ましいことです。子育てに不安や悩みを抱えていたり、つらいと感じたりしていたら、抱え込まずに、パートナーや子育て中のママ友やパパ友と会話の機会を作ったり、ときに、お互いに相談し合ったりしましょう。

それでも不安や悩みの解消につながらず、むしろもっとつらくなってしまう場合は、各地域にある子育て相談機関へ相談してみましょう。

周りに相談できる人がいない場合

新しい土地での生活のスタートや地域コミュニティの希薄化が言われている昨今、周りに相談できる相手がいないことも珍しくありません。また、シングルで子育てをする家庭も珍しくはなく、話のできるパートナーがいない場合もあるでしょう。そうしたあなたが子育てに不安や悩みを抱えていたり、つらいと感じていたら、そのままにせず、最寄りの子育て相談機関に相談してみましょう。忙しいあなたにとって、電話やメールで相談できる場所も多くあります。どんな話でもできる相手がありますし、子育てにかかわる様々なサービス、子育てプログラムや地域の子育てサークルについて紹介してくれます。また、多胎児の会、障害のある子どもを育てる親の会など、いろいろな集まりもあり、そうしたところを紹介してくれたりもします。

※保育園はもちろん子育て相談窓口です。ともに子育てをしている仲間として担任保育士、または園長・主任保育士に悩みを打ち明けてみてください。

なんでも話してみることで、心が軽くなることもあるかもしれません。

※対面ではなかなか悩みを打ち明けにくいという方には、電話相談窓口があります。

保育園にお電話くださっても結構ですし、井原市子育て支援課（0866）62-9517が井原市の子育て相談拠点です。

一人で悩まず、誰かに話してみましょう。

子どもにつらく当たってしまいそうな場合

子どもを正しく育てようと多くの親が頑張っています。しかし、そうした思いが強ければ強いほど、子どもの第一自立期と重なったりすると、「子育てがうまくいかない」と、悩みや不安を抱えてしまうことがあります。そして、時には、子どもに手を挙げたり、食事を作るのが嫌になったりなど、育児ができなくなってしまふこともあります。

子どもにつらく当たってしまいそうなあなたへ

一人で抱え込まず、児童相談所相談専用ダイヤル「0120-189-783（いちはやく・なやみを）」（フリーダイヤル）へ電話してください。子どもにとって、そしてあなたにとっても、決して悪いことにはなりません。子どもにかかわる専門家が、具体的な解決策やサポートについて、あなたと共に考えます。子どもの発達に不安があるなど子どものことで悩みを抱えている場合、出産に伴う不安や悩みについても、児童相談所へ相談することができます。

（認定特定非営利活動法人 児童虐待防止全国ネットワーク ホームページより）



私は大丈夫、でもあのひとのことが心配・・・

子育て中の親子に、優しいまなざしをお願いします。

ご近所や外出先で出会った子育て中の親子に、優しいまなざしをお願いします。赤ちゃんに微笑みかけたり、階段で困っている親子を見かけたら、ベビーカーの持ち運びを手伝ったり、そんな些細なあなたの行動が、子育て中の親子の心の支えになります。

日頃からお付き合いがあるなどご存じの親子で、気になる方がいる場合は、声をかけるなどしてみてください。お互いに育児の悩みを話せたり、子どもと一緒に遊ばせたりする相手がいれば、心が少し穏やかになるかもしれません。でも、あなたが受け止めきれなかったり、声をかけるのが難しい場合は、無理をせず、公的な機関を活用しましょう。

子育てに関する悩み相談は、上記でも触れましたが、お住いの市町村子育て窓口【井原市では井原市役所子育て支援課（0866）62-9517】、または児童相談所の児童相談所相談専用ダイヤル「0102-189-783（いちはやく・なやみを）」（フリーダイヤル）へ。

最後に保育園から・・・

核家族化、地域コミュニティの希薄化、少子化、地域の過疎化などに加えて、コロナ禍はもうすぐ2年半を迎えます。様々な社会情勢の変化の中で子育てをされている保護者の皆様には、ご苦労の多い日々だと思います。子育てスタイルは刻々と変化する時代ですので、「子どもはこう育てるべき」「親が頑張らなければならぬ」「誰かに話すなんて恥だ」などと思い詰らず、不安に思うこと、疑問に思うこと、何か一つでも誰かに話してみてください。きっとそこから広がる世界があります。ご家族やご友人だけでなく、あなたのSOSを受け取りたいと思っている人は周囲に必ずいるはず。その一人が保育園ですよ。あなたの抱えておられる重い荷物（悩みや不安）の一つでも保育園の職員と一緒に抱えてみてください。軽くなったと感じていただけたら幸いです。

「子育てって思っていたのと違うな・・・」と感じたら、一人で悩まず、誰かに話すことから始めましょう。